

# 文化

## 日本文化 見えませんでしたか



「日本の伝統は弱く、特に外国からの影響を容れやすい」という鈴木貞美さん(京都市西京区 国際日本文化研究センター)

日本文化の「伝統」とされているものは、実はある時期に意図的につくられたのではないかと鈴木貞美さんは「伝統は時代によって組み替えられてきた。新たな意味が与えられ、新しい語りだされてきた。『日本のなま』がどう語られてきたのか、歴史的に振り返ってみたい」と、日本の近現代の既存イメージを梳き直してきた。

### 鈴木貞美教授に聞く 伝統の組み替え

と評されたことは一度もなかった。江戸時代までの「文学」は儒学を中心とする中国語の書物や漢籍の学問を指した。「日本文化」明治から「日本文化」とひとくくりに言い出したのは明治時代半ばから、それまでは各藩や地方、身分、階層によってそれぞれの文化が成り立っていたのが西洋の概念に直面し、国民が誇り、伝統継承すべきものとして、国民文化が形作られた。「ヨーロッパへの対抗

## 時代に即し価値観が変遷

です。それまで日本人共通のものなんて意識しなくてもよかったのに、フランスの文化、イギリスの文化はこうですよと誇られて、まねて日本なりにつくったわけです。日本でも文学史が編まれた。ヨーロッパ諸国ではラテン語を除く「国語」で書かれていた原則に対して、日本では知的な書物の多くが漢文で書かれていたため、和語(やまとことば)だけでなく漢文の書物や漢詩も含んだ日本独自の文学史が作られた。

### 「ワ」も変質

日本の美意識の特徴として注目されている「ワビ・サビ」の意味も変質した。ワビは怨が寒らな苦しさを指していたのが、無一文の境地を喜ぶ心情に、サビは寂しさから深い豊かな情緒の意味に転じた。「これらの言葉をセレクトして、尊重さ

れるようになった」とい

### 世界を循環する

「文化はぐるぐる回っているというのは、案外知られていない」鈴木貞美さんは、アジアがヨーロッパの概念を受け止めたときに自分たちの文化の仕組みを替えていった経過を調べようとした中国や韓国の研究者と共同研究を進めている。

鈴木さんは、伝統の組み替えの流れは、明治時代初期よりも、むしろ明治後半、二十世紀初頭の日露戦争の後に大きく変わったと強調する。万葉集の評価も、戦前は雄渾で雄々しい歌が多い点にポイントが置かれたが、戦後は民衆の歌がたぐさあり、自然と一体になった日本人の自然観が強調される。「その時の国民の尊厳気の中で、この価値観を日本文化の本質(らし)しようと変わってゆく」とい

### 貴政

(文化報道部 日下田)

すすき・さたみ氏 1947年山口県生まれ。東京大学文学部仏文科卒。東洋大助教授などをへて、89年に国際日本文化研究センター助教授。96年から現職。専門は日本近現代の文芸、思想、文化。著書に「生命観の探究」「日本の文化」「ヨーロッパ」など。